

生きるということ ~The Meaning of Life~

-命の水と、緑の大地を-
中村哲医師が示した、静かで揺がぬ平和への情熱

中村哲医師は、アフガニスタンで戦乱や干ばつに苦しむ人々を救うためには医療だけでは限界があると痛感し、誤解や障害に晒されながらも、水路を作り、土地を潤し、農作物を蘇らせ、多くの命を救った。

中村哲医師の人生を凝縮した劇場版ドキュメンタリー『荒野に希望の灯をともし』（監督・撮影：谷津賢二氏）からインスピレーションを受け、中井智彦が脚本・演出・出演を手掛けるオリジナル新作音楽劇。



あらすじ

都内のど某ライブハウスで開かれている中井智彦のトーク&ライブにゲストとして招かれた友人の上野哲也。和やかな雰囲気の中、上野は「最近心が揺さぶられた出来事」として、中村哲医師について熱く語り始める。数日経ったある日、喫茶店で談笑する上野と中井。上野は思い立つように「中村哲医師の生涯を脚本として描いてみないか」と熱い視線で持ちかける。それをきっかけに中村哲医師の生涯を調べ始める中井…。『平和』と『興存』を生涯かけて追求した中村哲医師の行動や言葉からは、今もなお戦争が続く世の中において、今、私たちどう生きていくべきなのかを、深く問いかけてくる。

プロフィール



上野哲也 (中村哲医師役)

千葉県出身。舞台芸術学院卒業。劇団わらび座で様々な芸能や日本文化を学び、『龍馬』（ジェームス三木演出）、『火の鳥』（栗山英也演出）で主演を務める。独立後は『レ・ミゼラブル』に出演し、2012年より出演の『ミス・サイゴン』では14・16年にはクリス役、22年はジョン役を務める。また、2023・24年『ムーン・ルージュ！ザ・ミュージカル』ではトゥールーズニコロートック役を務める。時代劇から海外作品、ストレートプレイからミュージカルまで様々なジャンルの舞台上でシリアスからコミカルな役まで幅広く演じている。主な出演作に、『笑う男』、『恋、燃ゆる。』、『シークレット・ガーデン』、『ボクが死んだ日はハレ』、『アレグロ』、『手紙』など。

中井智彦 (脚本・演出/出演)

2007年東宝ミュージカル『レ・ミゼラブル』(演出ジョン・ケアート)に司教ルーグル役でデビュー。2010年から5年間、劇団四季に所属。『美女と野獣』(野獣役)と『オペラ座の怪人』(ラウル役)はそれぞれ約500ステージをつとめる。図書館で偶然手にした『中原中也全集』に深く感銘を受け舞台の創作を開始。2016年に企画構成・作曲・演出を自ら手がける独り舞台『詩人・中原中也の世界』を、2022年から毎年『ワタシノコト』を発表。以降もブラッシュアップを重ねながら公演創作を続けている。近年の舞台出演作は『ピリー・エリオット〜ワル・ダンサー〜』(トニー役)、『ナイト・テイル-騎士物語-』(シリウス役/歌唱指導)、『ジェーン・エア』(シンジョン役/歌唱指導)、『ムーン・ルージュ！ザ・ミュージカル』(サンティアゴ役)、2025年1月より『ミセン』に出演予定。



樋口祥久 (振付/出演)

昭和音楽大学卒業後、アメリカN.YのPeridance Capezio Center、Alvin Ailey American Dance Theaterの直属校Ailey Schoolにスカラシップとして学ぶ。帰国後、舞台やイベントに多数出演し、自身の作品も発表。近年では映像作品にも出演。主な出演作に、『ビッグ・フィッシュ』、『メリー・ポピンズ』、『ナイト・テイル-騎士物語-』、『WEST SIDE STORY』、『ミス・サイゴン』、『ワタシノコト』、『三ツ星アラカルト』など。2025年に『三ツ星アラカルト』の再演、『TarryTown』の出演を控えている。

米島史子 (振付)

1989年10月22日生まれ、東京都出身。早稲田大学文化構想学部卒。大学在学中に様々なジャンルのダンスや舞台に出会う。ドラステックダンス'D'に所属し、ミュージカルやダンス公演に出演するほか、振付や後進の育成にも当たる。主な出演作『ムーン・ルージュ！ザ・ミュージカル』、『20世紀号に乗って』、『THE BODY FROM OZ』、『ハウ・トゥー・サクシード』、『王家の紋章』、『BARNUM』、『SHIRANAMI』、『ノジャマゲーム』、『裂け目と平和』。洗足学園音楽大学ダンスコース非常勤講師。

